

# 教材としてのグリム童話

明 石 真 和

## はじめに

グリムはすでに古いといわれる。200年ほど前に採集、記録されたものであるから、現在のドイツ語ではほとんど使用されない単語や言い回しも、当然混在する。とはいえ、いまだに童話自体の人気は高く、興味をもつ学生が多いのも事実である。近年では、さまざまな学問分野からの研究が進み、新たな成果も現れている。

ドイツ語学やドイツ語教育という見地からすれば、興味をもつ学習者の存在は動機づけには有利だが、それだけで適切な教材たりうるか、という疑問が残る。古いものであれば、「いかに現代に生かすか？」というアイデアも必要となる。本稿の目的は、グリム童話の文体的な特徴をふまえつつ、教材としての可能性をさぐることにある。

もとより、どんなに古くて難解な作品であれ、上級者向けの授業で使用するには、何のさしさわりもないであろう。ここでは、対象者として、第2外国語で初級文法を学ぶ「初級」と「初級文法終了後の中級」の2つのレベルを想定した。教科書では、大学1年次の初級文法書や、2年次以降の授業に使用する読本をイメージしている。

およそ200編もあるグリム童話の作品の全てを網羅的に取り上げるのは困難であるし、教材使用を前提として考えるのなら、なるべく有名な話が良いであろう。本稿では、グリム自らが選定した「小さな版」に着目し、そこに収められた50編の中から、以下の4話を調査対象として、教材としての使用可能性を考察した。

- ①狼と七匹の子やぎ Der Wolf und die sieben jungen Geißlein (KHM 5)
- ②赤ずきん Rotkäppchen (KHM26)
- ③いばら姫 Dornröschen (KHM50)
- ④幸せなハンス Hans im Glück (KHM83)

いずれも比較的よく知られた話であり、教材として取り上げられる可能性が高いこと、各話ともさほど長編ではないこと、そして、動物譚（狼と七匹の子やぎ）、子

供が主人公の話（赤ずきん）、職人の話（幸せなハンス）、お姫様もの（いばら姫）といったグリム童話を代表するジャンルを包括していること等の理由による。

以下では、先ず各作品に使われた動詞、名詞、形容詞・副詞などを整理し、現代ドイツ語の基本単語と比較した。その後、用例を、語のレベル、文のレベルそれぞれに、教材使用という見地から観察した。

なお、「基本単語」としては、「ドイツ語検定試験 3級及び4級程度の語彙約1500語レベル（以下1500S）」と、その上の「2000語レベル（以下2000S）」を想定した<sup>1)</sup>。独検に代表される内外の検定試験は、初級、中級いずれの学習者にとっても、目標のひとつに掲げやすい。現在の日本における最大公約数的な目安と考えた次第である。

## I 主要品詞の出現頻度と現代ドイツ語との比較

狼と七匹の子やぎ（以下W）、赤ずきん（以下R）、いばら姫（以下D）、幸せなハンス（以下H）に使用された主要品詞の概数は次のとおりである。

	W	R	D	H
動詞（約250）	約81	約91	約92	約136
名詞（約315）	約73	約73	約96	約148
形容詞・副詞（約170）	約30	約75	約48	約80

動詞の場合、非分離動詞は独立してひとつと数えたが、分離動詞は必ずしもこの限りではない。たとえばgehenは、fort, hinaus, hinunter, vorbei, weiter等の方向を表す規定語とともに用いられていることが多い。kommenも同様である。この種の分離動詞の大部分は、基礎語の項目に入れた。ただし、anfangenのように10回以上出現のある分離動詞は、少数の例外として処理している。数値にこだわって、大勢を見失うことをおそれたためである。

名詞も同様に、SteinとWackerstein, UhrとWanduhr, TürとHaustürなどをひとつとして数えた。形容詞・副詞の類での、schönとwunderschön, lautとüberlautなども同じである。おおよその傾向を探るには十分であると判断している<sup>2)</sup>。

4編中に現れた各品詞が、現代語の基本単語に含まれている割合は、動詞が1500Sで約47%、2000Sで約54%、名詞が1500Sで約35%、2000Sで48%、形容詞・副詞が1500Sで約47%、2000Sで約60%となっている。たとえば、学習者が、3、4級に必要な約1500語を覚えて、グリムに当たろうとした場合、単純計算でも動詞や形容詞・

副詞の半分以上、名詞にいたっては3分の2を、そのつど調べなくてはならないことになる。つまり、初級文法の主要項目をほぼ終了し、検定試験3級を目指して基本単語を覚えた学生でも、グリム童話原文にいきなり取り組むのは難儀ということであろう。

## Ⅱ 語のレベルでの分析

### 1 動詞

移動系 (fahren, gehen, kommen, laufen, springen, treten, ziehen等), 発話系 (sagen, sprechen, rufen), 思考系 (denken), 知覚系 (hören, sehen) のほか, „machen, tun“, „geben, nehmen“, „legen, liegen, setzen, stehen“, さらにhabenとseinが頻出しており, 約250の動詞のうち, 上記23種だけで全用例の半数近くを占めている<sup>3)</sup>。

これら23種すべてが, 基本単語1500Sであり, その意味で, 「グリムの頻出動詞は, 現代にもそのまま通用する」といえよう。つまり基本中の基本ともいえるこれらの単語を先ず覚えることが, 将来グリム原文に取り組む基礎作業にもなるということである。

#### 1-1 移動系 (fahren, gehen, kommen, laufen, springen, treten, ziehen)

上述のように, 方向を示す規定語とともに使用される用法が一番多い。

Da ging der Wolf fort zu einem Krämer und... (W)

そこで狼は雑貨屋に行き, . . .

この種の動詞は, 現代ドイツ語と同じ意味のため, 上例のような単純な状況で使用されると, 初級の学習者にとっても分かりやすいであろう。とはいえ, 多くの場合, 分離動詞, 副文, 接続法等, その他の要素がからんで, 難易度は高くなっている。

und wenn du hinauskommst, so geh hübsch sittsam und lauf nicht vom Weg ab, (R)

表へ出たら, ちゃんとお行儀良くするのよ。道草を食ってはだめよ。

Als elfe ihre Sprüche eben getan hatten, trat plötzlich die dreizehnte herein, (D)

11人がそれぞれの望みを伝え終えたとき, 突然13人目がはいってきた . . .

Das Pferd wäre auch durchgegangen, wenn es nicht ein Bauer aufgehalten hätte,  
der des Weges kam... (H)

もし来合わせた農夫が止めてくれなかったら、その馬は走り去ってしまったであろう。

1 - 2 発話系 (sagen,sprechen,rufen), 思考系 (denken)

引用符の会話文とともに使われる er(sie) sagte..., er(sie) sprach...,er(sie) rief...,  
er(sie) dachte...は、グリム童話で頻繁に現れるパターンである。初級者にも容易に  
理解できるであろう。

Dann kam er zurück,klopfte an die Haustür und rief,... (W)

それから狼はもどってきて、ドアをたたいて、言いました。

Eines Tages sprach seine Mutter zu ihm „komm, Rotkäppchen,...“ (R)

ある日、お母さんが言いました。「おいで、赤ずきん、・・・」

Der Jäger ging eben an dem Haus vorbei und dachte, .... (R)

ちょうど家のところを通りかかった狩人は、考えました。

1 - 3 „machen,tun“, „geben,nehmen“, „legen,liegen,setzen,stehe“

machenの代表例は、Dにおける、王女と糸つむぎ老女の対話であろう。動詞  
spinnenは特殊単語としても、謎の部屋にいる老女のひとことが、地の文に混じっ  
て、効果を上げているように思われる<sup>4)</sup>。このほか、geben,nehmen,liegen等、初級  
者にもさまざまに応用できるであろう。

Was machst du da? Ich spinne. (D)

ここで何をしているの？ 糸をつむいでいるのじゃよ。

ich gebe dir mein Pferd, und du gibst mir deinen Klumpen... (H)

俺の馬をやるから、お前の金塊をくれよ。

Er nahm also das Seil in die Hand und trieb das Schwein schnell auf einen  
Seitenweg fort. (H)

こうして、若者は綱を手にとると、豚を急いでわき道に追い立てていった。

Als sie auf die Wiese kam,so lag der Wolf an dem Baum und schnarchte,(W)  
母やぎが野原にやって来ると、木のそばに狼が寝て、いびきをかいていました。

#### 1 - 4 haben

現代の意味用法とほぼ同じである。zu不定詞をともなった例もある。また、用例は割愛するが、過去の出来事を語る形式の多い童話では、完了の助動詞としても多用されている。

Es war einmal eine alte Geiß, die hatte sieben jungen Geißlein, und hatte sie lieb, wie eine Mutter ihre Kinder lieb hat. (W)

むかし、一匹の年老いた母やぎがおりました。彼女には七匹の子やぎがおり、母親なら誰もがその子供たちを思うように、とても可愛がっていました。

da trat die zwölfte hervor, die ihren Wunsch noch übrig hatte,...(D)

まだ祝いの言葉が残っていた12番目の賢女が歩み出て、

da habe ich einen Klumpen heim zu tragen, (H)

金塊を、家まで運んでいかななくてはならないんだよ。

#### 1 - 5 sein

現代との差異はなく、存在を示す「いる、ある」の意味のほか、連辞 (Kopula) の用法がある。haben同様、完了の助動詞としての用例は割愛した。

...eure Mutter ist da. (中略) du bist der Wolf! (中略) Ja,so sind die Menschen. (W)

「お母さんが帰ってきたよ」・・・「お前は狼だ!」・・・ええ、人間なんてそんなもんです。

denn es war so schön, sittsam,freundlich und verständig,(D)

王女は、とても美しく、お行儀良く、朗らかで聞き分けが良かったのです。

現代語同様の状態受動の例もある。

**Tisch, Stühle und Bänke waren umgeworfen, (中略) Decke und Kissen waren aus dem Bett gezogen, (W)**

テーブルやイスや腰掛は引っくり返され、毛布と枕はベッドから引き出されていました。

#### 1-6 話法の助動詞

話法の助動詞については、拙稿「グリム童話に見る話法の助動詞」(1997)に詳述したため、ここでは省略する<sup>5)</sup>。グリムの時代には、現代とほぼ同じ用法が定着しているが、現在頻繁に使用される *möchte* の例は見られない。拙稿で扱わなかった *wollen, sollen* の代表例、それに中級以上での文法に使用可能な用法を示しておく。

##### ① *wollen*

**Eines Tages wollte sie in den Wald gehen und Futter holen, (W)**

ある日、お母さんやぎは、森へえさを取りに行こうと思いました。

##### ② *sollen*

**und der Tag war gekommen, wo Dornröschen wieder erwachen sollte. (D)**

そして、いばら姫が目を覚ます日がやってきました。

##### ③ 完了不定詞とむすびについての主観的用法

**da fiel ihm ein, der Wolf könnte die Großmutter gefressen haben, (R)**

狩人はふと思いました。狼はおばあさんを食べたのかもしれない。

##### ④ 副文内の語順

**Es wird auch erzählt, daß einmal, als Rotkäppchen der alten Großmutter wieder Gebackenes brachte, ein anderer Wolf ihm zugesprochen und es vom Wege habe ableiten wollen. (R)**

こんなお話もあります。赤ずきんが、再びおばあさんにお菓子をもっていったときのことです。別の狼が話しかけ、わき道へ誘い込もうとしました。

1-7 知覚動詞 (sehen,hörenなど) /lassen

話法の助動詞に準ずる形で引き合いにだされることの多い知覚動詞やlassenも現代とほぼ同じ用例であるため、授業で引用しやすいであろう。

Da ging er weiter und sah im Saale den ganzen Hofstaat liegen und schlafen (D)  
王子はさらに奥へと入っていき、大広間で王宮の廷臣がみな横になって眠りこけているのを目にしました<sup>6)</sup>。

(ich) will Euch das Schwein für die Kuh lassen. (H)

牛のかわりに豚を置いていくよ。

(Hans) übergab ihm die Kuh,ließ sich das Schweinchen vom Karren losmachen (H)

ハンスは、その男に牛を渡し、豚を手押し車からおろしました。

1-8 werden

werdenには、現代と同じような「本動詞」、「未来の助動詞」、「受動の助動詞」としての3つの役割が認められる。過去形のwardという古形が、学習者への説明を要する箇所である。周囲の単語によっても、文の難易度は変わってくる。

① 本動詞として

Mach dich auf, bevor es heiß wird... (R)

暑くなる前に、出かけなさい。

das Feuer, das auf dem Herde flackerte, ward still.... (D)

かまどでゆらゆらと燃えていた火も、静かになり...

Dem guten Hans ward bang, (H)

人の良いハンスは、臆病になり、

Da ward es ihm ganz heiß, so daß ihm vor Durst die Zunge am Gaumen klebte. (H)

非常に暑くなってきたため、渇きからハンスの舌はのどにくっつきそうになった。

② 未来の助動詞として

an seiner rauhen Stimme und an seinen schwarzen Füßen werdet ihr ihn gleich erkennen. (W)

あいつのガラガラ声とまっ黒な足で、すぐに狼だと分かるよ。

der wird noch besser schmecken als die Alte (R)

あぶらののったおやつは、ばあさんより旨いことだろうぜ。

③ 受動の助動詞として

Dの最初と最後の場面の2例は、2つの過去形が混在していることを示している。初級文法レベルの学習者は混乱するであろう。

Das Fest ward mit aller Pracht gefeiert. (D)

祝宴が華やかに祝われました。

Und da wurde die Hochzeit des Königssohns mit dem Dornröschen mit aller Pracht gefeiert. (D)

そこで王子といばら姫の結婚式が、はなやかに祝われました。

現在完了に現れた過去分詞は、現在と同形 (worden) である。

....die ist aber auch acht Wochen lang genudelt worden. (H)

このガチョウは、8週間、練り餌で育てただぜ

1-9 再帰動詞

4編中、かなり多くの再帰動詞の使用が見られる。現在も使われているものと、すでに古語となっているものが混在している。一部を列挙しておく。

sich bewegen, sich bücken, sich befinden, sich bemühen, sich besinnen, sich erholen, sich fürchten, sich gesellen, sich laben, sich legen, sich (auf den Weg) machen, sich nähern, sich rächen, sich regen, sich setzen, sich stoßen, sich verstellen, sich verstecken, sich weigern, sich wundern, sich zutragen 等<sup>7)</sup>。



たとえば, **sich fürchten** は, 現在と同じような意味に使用されている。  
**Da fürchtete sich der Müller und machte ihm die Pfote weiß. (W)**  
すると粉屋は怖くなり, 狼の足を白くしてやりました。

一方, RやHなどの複数の物語に使われる**sich laben** は, すでに古形といえよう。  
**Wie eine Schnecke kam er zu einem Feldbrunnen geschlichen, wollte da ruhen und sich mit einem frischen Trunk laben. (H)**  
ハンスは, かたつむりのようにノロノロと這いながら, 野原の泉にやってきました。一休みして, 新鮮な水でひと心地つこうと考えました。

**sie ist krank und schwach und wird sich daran laben. (R)**  
おばあさんをご病気で弱っているの。お菓子とワインで元気になるのよ。

#### 1-10 zu不定詞

4編中, zuをともなう不定詞は数多く見られ, そのかなりの部分が, 初級文法の用例として使用可能と思われる。次のような動詞との併用例が見られる。

**anfangen, beginnen, brauchen, haben, sein, vergessen, wissen**

**Hans fing an, von seinem Glück zu erzählen, (H)**  
ハンスは自分の幸運について, 語り始めました。

**Rings um das Schloß aber begann eine Dornenhecke zu wachsen, (D)**  
お城の周りには, いばらの茂みが育ち始めました。

**Und wenn du in ihre Stube kommst, so vergiß nicht, guten Morgen zu sagen, und guck nicht erst an alle Ecken herum. (R)**  
そしてお部屋にはいったら, おはようのご挨拶を忘れてはだめよ。それに, お部屋のあちこちをきよろきよろ眺めまわしてもいけないわ。

**Ich werde ja zum glücklichsten Menschen auf Erden; habe ich Geld, sooft ich in die Tasche greife, was brauche ich da länger zu sorgen? (H)**  
おれは世界一幸せな人間になるんだ。ポケットに手をつっこむたび金があるとなり

ゃあ、それ以上何をくよくよする必要があろうってんだ。

前置詞ohneとむすびついた用例も散見する。

Der Wolf drückte auf die Klinke, die Türe sprang auf und er ging, ohne ein Wort zu sprechen, gerade zum Bett der Großmutter und verschluckte sie. (R)

狼は取っ手を押し、ドアがあくと、ひとことも発することなく、まっすぐにおばあさんのベッドに向かい、ひと飲みにしてしまいました。

Und ohne ein Wort weiter zu sprechen,kehrte sie sich um und verließ den Saal. (D)

そして、その女はそれ以上何も言わず、きびすを返して広間を出ていきました。

## 2 名詞

マックス・リュティによれば、「直裁な名詞だけによる描写は昔話のすべての要素に、昔話の様式全体が獲得しようめざしているあの形式の固定性をあたえる。昔話が名をあげてのべる物の中では、それ自身がすでにするどい輪郭をもっている」という<sup>8)</sup>。

グリム童話も例外ではない。人間、動物、身体の部分、建物・部屋の屋内外、身につけるもの、飲食物、自然、道具、時間や度量衡に関するものなど、各話のストーリーにまつわるさまざまな名詞のほとんどが、具体的ではっきりとした輪郭をもっている。つきつめていえば、物語の輪郭を明確に表現するのは名詞の役割ともいえる。

### 2-1 出現回数

総数で約315の名詞が見られる。各話の出現頻度は次のとおりである。名詞の数の多いHを除けば、残る三編はほぼ同じ数値である。

	W	R	R	H
グリムの名詞：	約73	約73	約96	約148
内1500S：	34	32	40	60
1500Sの割合：	45.9%	43.8%	41.7%	39.3%

### 2-2 傾向と特徴

当然のことながら、4編それぞれに、話の内容に直接関わる名詞が出現している。

W : 主人公の動物 (Wolf, Geiß, Geißlein) の他, Krämer (雑貨屋), Müller (粉屋), Bäcker (パン屋) など職業を表す名詞が見られる。Bein (足), Bauch (腹), Fuß (足), Haar (髪), Hand (手), Haut (皮膚), Kopf (頭), Magen (胃) 等, 身体部分の名詞も多い。

R : Mutter (母親), Großmutter (祖母), Kind (子供), Wolf (狼) などが主人公である。身体部分の Auge (目), Bauch (腹), Hals (喉), Leib (胴体), Maul (口), Nase (鼻), Ohr (耳), Pelz (毛皮), 建物内外の Bett (ベッド), Dach (屋根), Eimer (桶), Flasche (瓶), Haus (家), 自然や周囲の Blume (花), Sonnenstrahlen (日光), Stein (石), Straße (道), Wald (森), Weg (道) など。

D : 現実には今でもなかなかお目にかかれない König (王), Königin (王妃), Königstochter (王女), Königssohn (王子) の他, 今も日常で使用される Mädchen (女の子), Bekannte (知人), Freund (友人), Verwandte (親類) など。その他, 室内外の Fenster (窓), Hecke (生垣), Herd (かまど), Hof (宮廷), Kammer (部屋), Saal (大広間), Stube (小部屋), Tür (扉), Wand (壁) など。このほか, 冠婚葬祭で Fest (祝祭), Hochzeit (結婚式), Tod (死)。喜怒哀楽の感情や性格・性質を表す Freude (歓喜), Lust (欲), Wunsch (願い), Unglück (不幸), Tugend (徳), Schönheit (美), Reichtum (富) など。

H : ハンスが向かう故郷の母親, 道々出会う人物, 動物が先ず挙げられる。Mutter (母親), Heimat (故郷), Reiter (馬上の人), Pferd (馬), Bauer (農夫), Kuh (牛), Schwein (豚), Gans (ガチョウ) など。身体部分の Arm (腕), Auge (目), Bein (足), Fuß (足), Glied (胴体), Haar (髪), Hals (喉), Hand (手), Herz (心臓), Hinterfuß (後ろ足), Kopf (頭), Schulter (肩), Stimme (声)。職業, 商売用語で, Metzger (肉屋), Scherenschleifer (ハサミ研ぎ), Geld (お金), Gold (金), Handel (取引), Lohn (賃金), Tausch (交換), Handwerk (手仕事) など。

各話の名詞を羅列するだけでストーリーが組み立てられそうである。ただし, 名詞の分布は, 話の内容によって異なるため, 偶然性が高い。たとえば, 4編中に Vater (父親) は出現していない。

また, 飲食物関係でも, Hを例に取れば, Brot (パン), Butter (バター), Fleisch (肉)

などの基本単語と並んでKindtaufschmauß(洗礼のご馳走),Schlachten(畜殺)など、特殊な語彙が同時に現れている。

童話の世界には、当然のことながら現代のテレビ、パソコン、電話、列車、飛行機などは登場しない。逆に、すでに使用されていない古語はふんだんに存在する。特に名詞に関しては、昔と今の単語への配慮が、常に必要であろう。

### 2-3 格の古い用法

格についても、古い表現や、現代とは異なった使い方が散見する。学習者への説明が必要な箇所である。

#### ① 2格

die Jünglinge blieben darin hängen, konnten sich nicht wieder losmachen und starben eines jämmerlichen Todes. (D)

若者(王子)たちは、いばらの茂みの中でひっかかり、動きがとれずに哀れな最期を遂げました。

....daß ...viele Königssöhne...wären...eines traurigen Todes gestorben (D)

何人もの王子が、非業の死を遂げたとのことでした。

seiner Sorgen entledigt, (H)

心配から解放されて、

Da konnte er sich des Gedankens nicht erwehren,.... (H)

ハンスはその考え(石を運ばなくてよいなら、どんなにいいだろう)に抗うことができませんでした。

Es waren ihrer dreizehen in seinem Reiche, (D)

国には13人の賢女がいた、

Glücklicherweise kam gerade ein Metzger des Weges... (H) <sup>9)</sup>

運よく、ちょうど肉屋が道をやって来た。

② 3格

男性名詞や中性名詞の3格語尾に、今ではあまり用いられない古形の-eが時おり見られる。

R : dem Kinde, aus dem Bette, vom Wege,

D : in seinem Reiche, im Saale, bei dem Throne, auf dem Dache,

H : mit Eurem Schweine, in(nach) dem Dorfe

3 形容詞, 副詞

「修飾語を多く付けると、表現は弱くなる傾向をもっている。(中略) 一般に、長い間、語り伝えられてきたおとぎ話などには、あまり形容詞がない」という外山滋比古の言葉は、リュティの指摘とも符合する<sup>10)</sup>。グリム童話の形容詞や副詞も、名詞と同様に輪郭のはっきりとしたものが多い。

3-1 出現回数

総数約170弱のうち1500Sの基本単語に含まれているのは約80(約47%)である。基本単語レベルを2000Sにまで拡大すると、その数は100以上になり、60%を超える。表のように、形容詞・副詞は、RとHでの数の多さが目立っている。

	W	R	D	H
形容詞・副詞 :	約30	約75	約48	約80
内1500S :	17	48	25	35
1500Sの割合 :	57%	64%	52%	44%

3-2 傾向と特徴

各話に現れた主な形容詞, 副詞を列挙する。

W : alt, arm, endlich, fein, ganz, gleich, groß, grün, lang, lange, laut, oft, rauh, schwarz, tot, viel, weiß

R : abends, allein, alt, arm, bald, beide, böse, draußen, dunkel, einmal, erst, frisch, fröhlich, früh, gerade, gerne, gleich, groß, gut, halb, heiß, heute, hier, hübsch, immer, klein, krank, lang, mehr, nur, offen, rot, schön, schwach, schwer, sonst, stark, still, süß, tief, wieder, zusammen

D : allein, alt, böse, einmal, eng, fest, freundlich, ganz, gern, groß, gut, immer, klein, lustig, möglich, plötzlich, schon, schön, schwach, still, traurig, tief,

weise, weiter, wieder, zusammen

H : bang bedächtig, bedenklich, beide, besser, dazu, ehrlich, eigentlich, finster, frei, frisch, fröhlich, ganz, genug, gerne, gewöhnlich, gleich, glücklich, groß, gut, halb, heiß, immer, jung, lang, laut, letzt, lustig, munter, müde, nun, richtig, ruhig, schlecht, schlimm, schnell, schön, schwer, stark, treu, weiß, weiter, wieder, wohl

各話を比較すると、たとえばWの形容詞・副詞のほうが、Hのそれより基本的な語彙であることが分かる。グリムの頻出形容詞・副詞は、ほとんどが現在でも基本単語である。ただし、稀にgülden(H)やhaußen(R)といった古形が見られる。

### Ⅲ 文のレベルでの分析

従属接続詞や関係代名詞といった副文の項目は、初級文法書では後半に置かれていることが多い。第2外国語では、設定時間数やコマ数によっては、1年次の授業で取り上げるのが困難な場合もある。しかし、中級へのステップとして欠かせない文法項目であり、グリムをどこまで活用できるか探してみたい。

次表からも分かるように、WやRに比べ、DとHで関係代名詞の使用頻度が高い。初級者にとって、副文の少ないほうが理解しやすいのは当然である。同じグリムでも物語によって偏りがみられることは、教材選定に際して注意を要する点である。

	W	R	D	H
従属接続詞・関係副詞	22	39	30	47
関係代名詞	2	3	12	16

#### 1 従属の接続詞・関係副詞

使用頻度の高いものから順に、dass (38回), als (25回), wie (22回), wenn (17回) である<sup>11)</sup>。

主要な接続詞や関係副詞は、数が限られているので、童話に多く出てくる用法を事前に知っておくと、理解が容易になるであろう。4編の傾向としては次の通りである。授業でも接続詞や従属文の説明等に使用可能と思われる。

① 同じ意味として用いられたals,wieが多い。

Und als er an den Brunnen kam und sich über das Wasser bückte und trinken

wollte, da zogen ihn die schweren Steine hinein...(W)

そして、狼が泉にやってきて、かがんで水を飲もうとしたとき、重い石のせいで泉に引きずり込まれ・・・

Wie er es mit dem Kuß berührt hatte, schlug Dornröschen die Augen auf, erwachte, und blickte ihn ganz freundlich an.(D)

彼のキスが触れると、いばら姫はぱっちりと目を開き、目覚め、そして親しげに王子を見つめました。

ただし、言い回しが文語調で古い例もある。

Als der Wolf seine Lust gebüßt hatte, trollte er sich fort, legte sich...(W)

狼は己が欲望を満たすと、のろのろと歩いて、横になりました....

Wie der Wolf sein Gelüsten gestillt hatte, legte er sich wieder ins Bett,...(R)

狼は欲望を鎮めると、またベッドに横になりました。

② dassをともなう副文では、前段を受けての結果文が多い。

alles war so still, daß einer seinen Atem hören konnte. (中略) Da lag es und war so schön, daß er die Augen nicht abwenden konnte.(D)

すべてが静寂にみちていたため、自分の息も聞えるほどでした。・・・そこに王女が横たわっていました。あまりに美しいので、王子は目をそらすことができませんでした。

aber die Steine waren so schwer, daß er gleich niedersank und sich totfiel.(R)

しかし、石がとても重かったので、狼はじきに倒れて死んでしまいました。

結果文と同時に、ごく一般的なdassの用例もある。

Aber die Geißerchen hörten an der rauhen Stimme, daß es der Wolf war,(W)

それでも、子やぎ達は、ガラガラ声で、それが狼だということを聞き分けました。

③ wenn

4編中にwennは計17例(W 2例, R 6例, D 1例, H 8例)見られるが、Hの1

例を除くと、全てが直接引用の対話文、もしくはモノログ部での出現である。日常会話体を中心に学ぶ初級者には、利用しやすい表現であろう。

wenn ich der Großmutter einen frischen Strauß mitbringe, der wird ihr auch Freude machen, (R)

おばあさんに新しいお花の束を持っていけば、きっとよろこばれるわ。

Wenn ichs recht überlege, (中略) habe ich noch Vorteil bei dem Tausch: (H)

つらつら考えるに、今の交換でも、俺はまだ得をしている。

④ 関連の接続詞 (zwar~aber, nicht bloß~sondern auch, nicht~sondern)

es ist zwar Gold, aber ich kann den Kopf dabei nicht grand halten, (H)

たしかに、これが金塊だというのはいいのだが、(かついでいると)首をまっすぐにしていられないんだ。

Er ladete nicht bloß seine Verwandte, Freunde und Bekannte, sondern auch die weisen Frauen dazu ein, (D)

王は、親類、友人、知人だけでなく、賢女たちも招きました。

Die hab ich nicht gekauft, sondern für mein Schwein eingetauscht. (H)

これ(ガチョウ)は買ったのではなく、もっていたブタと交換したのさ。

## 2 関係代名詞

WとRでは指示代名詞が多用され、たたみかけるようなテンポの良い語り口調であるのに対し、Dでは関係代名詞の使用頻度が高く、じっくりとした文語調となっている。Hでは、一人会話のモノログ部や二人の対話部分が、適宜地の文に挿入され、冗長になるのを回避している。

Der Reiter, der das gehört hatte, hielt an und rief, ei, Hans, warum... (H)

それを聞きつけた馬上の男は、馬を止めて言いました。「おい、ハンス、なんで・・・」

der König und die Königin, die eben heim gekommen waren und in den Saal



getreten waren, fingen an einzuschlafen, (D)

ちょうど、城にもどって、広間に足を踏み入れた王と王妃も、眠り始めました。

der型と並んで、welcher型の関係代名詞もしばしば登場する。

endlich kam er zu dem Turm und öffnete die Tür zu der kleinen Stube, in welcher Dornröschen schlief. (D)

とうとう王子は塔にやってきて、いばら姫の眠る小部屋への扉を開けたのです。

現在完了形（能動態）をともなった前置詞付き関係代名詞が、受動態の主文に接続している次のような例は、初級者には複雑すぎるであろう。

In dem Dorfe, durch das ich gekommen bin, ist eben dem Schulzen eins aus dem Stall gestohlen worden. (H)

俺が通ってきた村で、さっき村長のブタ小屋から一匹盗まれたようだぜ。

#### IV 応用

以上の点をふまえ、グリムを教材として使用するについて、いくつかの提案を試みたい。

##### 1 使用可能例文（補足）

II, IIIに挙げた例のほか、数は少ないが、単語を入れ替えるだけで、授業内での説明用例文として使えるような言い回しや、副詞や格の用法が見られる。

##### ① kaum

W, R, Dの3編に計4箇所使われている。そのうちの3例が、物語のクライマックス近くの緊張が高まる場面での効果的な表現となっている。初級者にとって、kaumを学ぶ際の好例といえよう。

Kaum hatte sie aber die Spindel angerührt, so ging der Zauberspruch in Erfüllung, und sie stach sich damit in den Finger. (D)

お姫様がつむに触れるやいなや、例の呪文が実行されたのです。姫は指を刺してしまいました。

Kaum hatte der Wolf das gesagt, so trat er einen Satz aus dem Bette und verschlang das arme Rotkäppchen. (R)

狼はそう言うがはやいか、ベッドから跳ねるように飛び降りて、かわいそうな赤ずきんをひと飲みにしてしまいました。

Und kaum hatte sie einen Schnitt getan, so streckte schon ein Geißlein den Kopf heraus, und als sie weiter schnitt so sprangen nacheinander alle sechs heraus, (W)

母やぎが切り裂いた途端、もう子やぎの頭が飛び出してきました。そしてさらに切っていくと、次々に六匹が飛び出してきたのです。

## ② 3格をとるbegegnen

4編中のRとHの2作品、それも通算3回の使用例しかないが、学習者にbegegnenが3格目的語を取る動詞であることを意識させられる好例といえよう。

Wie nun Rotkäppchen in den Wald kam, begegnete ihm der Wolf. (R)

さて、赤ずきんが森にやってくると、狼に出会いました。

残る2例は、難易度が高いであろう。赤ずきん物語は、通常、狩人が帰って、祖母が赤ずきんの持ってきたお菓子を食ベワインを飲む場面で終わるのだが、グリム原文には続きがあり、赤ずきんがもう一度、別の狼に出くわす話が続けている。

Rotkäppchen hütete sich und ging gerade fort seines Wegs und sagte der Großmutter, daß es dem Wolf begegnet wäre, der ihm guten Tag gewünscht, aber so böse aus den Augen geguckt hätte. (R)

赤ずきんはわが身を守って、まっすぐに道を急ぎ、おばあさんに言いました。狼に出くわしたことで、その狼がこんにちはといったけど、嫌な目で見ていることを。

Hでは、接続法も混じってさらに複雑になっている。

Hans zog weiter und überdachte, wie ihm doch alles nach Wunsch ginge, begegnete ihm ja eine Verdrießlichkeit, so würde sie doch gleich wieder gutgemacht. (H)

ハンスはさらにテクテクと歩きながらじっくり考えた。なんでこうまくいくのだ

ろう。嫌なことに出くわしても、すぐいい方向に向いていく。

### ③ jeと比較級

現在よく用いられるdesto (um so)との組み合わせではないが、次のような例がある。

Die Hitze ward drückender, je näher der Mittag kam,... (H)

昼が近づくとつれ、暑さはよりひどくなりました...

### ④ Es war einmal

ドイツの童話の定番として、ぜひ初級の学習者にも覚えてほしいフレーズである。外国人の日本昔話愛好家が、「むかしむかし、あるところに・・・」と口ずさむようなものである。4編中2編が、この出だしとなっている。ただし、Dirne, Geißともに、日常会話では先ず使うことのない単語ではある。

Es war einmal eine kleine süße Dirne, die hatte jedermann lieb, (R)

むかし、誰からも好かれる、小さな可愛い女の子がおりました。

Es war einmal eine alte Geiß, die hatte sieben jungen Geißlein... (W)

むかし、一匹の年老いた母やぎがおりました。彼女には七匹の子やぎがおり・・・。

## 2 教材選択—R.Griesbachによる書き換え版

グリムの最大の難点は「古い表現が多く」、「時として冗長であること」が先ずあげられる。そこで、直接原文に取り組みのではなく、現代ドイツ語の語彙や言い回しで書き換えられた教材を使うのがひとつの方法である。

その意味では、R.Griesbachによって編纂された「ドイツの童話と伝説集 (Deutsche Märchen und Sagen)」が、格好のテキストといえる。たとえば、原文におけるRの冒頭部分やHの最終場面の冗長さも、きれいに書き換えられている。

Es war einmal eine kleine süße Dirne, die hatte jedermann lieb, der sie nur ansah, am allerliebsten aber ihre Großmutter, die wußte gar nicht, was sie alles dem Kinde geben sollte. Einmal schenkte sie ihm ein Käppchen von rotem Sammet, und weil ihm das so wohl stand und es nichts anders mehr tragen wollte, hieß es nur das Rotkäppchen. (原文)

むかしむかし、その娘を見た人は、誰もが好意を抱く、可愛い女の子がいました。特におばあさんは、その子に何でもあげたいと思うほど、好いていました。あるとき、あばあさんはビロードの赤いずきんを贈りました。それが女の子にはとても良く似合い、またいつもそれをかぶっていましたので、赤ずきんと呼ばれるようになりました。

Es war einmal ein kleines Mädchen, das immer ein rotes Käppchen trug. Darum hieß es bei allen Leuten nur „Rotkäppchen“. (R.Griesbach)

むかしむかし小さな女の子がいました。いつも赤いずきんをかぶっていたので、みんなから「赤ずきん」と呼ばれていました。

Hans (中略) sprang vor Freuden auf, kniete dann nieder und dankte Gott mit Tränen in den Augen, daß er ihm auch diese Gnade noch erwiesen und ihn auf eine so gute Art, (中略) von den anderen schweren Steinen befreit hätte, die ihm allein hinderlich gewesen wären. „So glücklich wie ich,“ rief er aus, „gibt es keinen Menschen unter der Sonne.“ Mit leichtem Herzen und frei von aller Last sprang er nun fort, bis er daheim bei seiner Mutter war. (原文)

ハンスは、歓びのあまり飛び上がり、そしてひざまずいて目に涙を浮かべながら、恩寵を賜り、ずっと厄介になっていた重い石から、このような良い形で解放して下さったことを、神様に感謝しました。「おれほどの幸せ者は」とハンスは叫びました。「この世にいねえぞ」。心もかるく、そしてすべての重荷から解き放たれて、彼はお母さんのいる家まで飛びはねていきました。

Da dankte er Gott, daß er ihn von dem schweren Stein befreit hatte.

„Ich bin der glücklichste Mensch auf der Welt“, rief er und wanderte mit leichtem Herzen und frei von aller Last nach Haus zu seiner Mutter. (R.Griesbach)

ハンスは、重い石から解放して下さったことを、神様に感謝しました。「おれは世界一の幸せもんだ」とハンスは叫び、心もかるく、すべての重荷から解き放たれて、お母さんのいる家に向かいました

グリースバハ版は、使われている語彙も、2000S程度の基本単語がほぼ7割以上を

を占め、学習者には手ごろである。また文章の流れが良いため、口ずさんで覚えるにも適している。国や時代や状況は異なるが、英国のチャールズ・ラム、メアリ・ラム姉弟の「シェイクスピア物語」が、シェイクスピア作品を多くの人に近づけたように、グリースバハの「ドイツの童話と伝説集」もそのような位置づけでとらえられないだろうか。教材として使用することを強く提案したい<sup>12)</sup>。

ただし、第2外国語の初級文法終了レベルでは、このグリースバハ版でさえ、すぐに取り組むのは困難であろう。現状に即して、グリースバハ版をさらに初級者用に編み直した労作が待たれるところである。有為の士に期待したい。

### 3 人形劇・寸劇・暗唱大会

授業の活性化という点からいえば、グリム童話を人形劇や寸劇、あるいは紙芝居で演じるという方法がある。この点は、拙稿「21世紀に向けてのドイツ語教育」(1998)にも詳述した<sup>13)</sup>。

人形劇については、3、4年次生以上を対象とした「ドイツ語演習(選択科目)」で、何年か連続してスタジオ授業を行った経験がある。グリム童話の中から、学生の希望で物語を選び、ドイツ人講師の協力を得て、シナリオを作成した。これまでに、「狼と七匹の子やぎ」、「ブレーメンの音楽隊」、「白雪姫」、「ヘンゼルとグレーテル」、「ウサギとハリネズミ」などの人形劇を、学生によるドイツ語アフレコ付きで制作した。いずれも、人形操作から音入れ、最終編集まで、受講学生の手で行われ、完成品は大学図書館に収められている。

また、ドイツ語弁論大会を利用する方法もある。毎年、全国各地で、大学や自治体、あるいは企業主催でその種のスピーチコンテストが開催されている。「暗唱部門」を設けている大会では、「グリム童話」をテキストに選ぶ出場者も多い。その場合にも、原文をそのまま使用するよりは、グリースバハ版など、現代の語彙や言い回しに書き改められたものを使用したほうが、学習効果が高いであろう<sup>14)</sup>。

## むすび

以上見てきたように、グリム童話の原文は、部分的にはともかく、初級文法を終えた学習者が、安直に取り組める代物ではない。

また、今回調査対象とした4篇のなかでも、各話間で難易度に差異があることが判明した。単一文をつなぎ、指示代名詞を多用したWのほうが、関係代名詞が多く

重厚感のあるDやHより「歯切れよく」感じられる。「語り」という点からいえば、Wのほうが優れているのではないかとさえ思うほどである。グリムを教材にする場合、担当教員が意識的に対象レベルを想定して、作品を選別する必要があるだろう。

また、逆の見方をすれば、たとえば文法に関して、グリムは初級から上級まで幅の広い項目を含んでいる。その多様性が、あらゆるレベルの教材たり得ることを示している。専門家の研究対象としてはもちろん、中級以上のLektüreとしても使用できるであろうし、加工すればさらに初級レベルでの使用も考えられる。初級文法の教科書に、エッセンスだけを練習問題として取り入れるのも一案である<sup>15)</sup>。グリム童話は、原文そのままを初級の学習者に提供するには無理があるとはいえ、教員側の工夫で、良質の教材とすることは可能であろう。

## 註

- 1) 独検3・4級必須単語集(白水社2009)とドイツ語基本単語2000(日本放送出版協会1974)を使用した。
- 2) 状態受動やそのほか形容詞的に使用されている分詞(angefüllt, umgeworfen, erschrocken等)は、基本的には動詞として数えた。habenとseinについては、完了の助動詞としての用例を除いてある。なお、数詞や方向を示す副詞は、数には入れていない。このように、数え方によって多少数値が変わるので、すべてに「約」と付けたのはそのためである。
- 3) 出現頻度:fahren1, gehen33, kommen35, laufen16, springen12, treten5, ziehen10, denken11, sagen15, sprechen33, rufen21, hören11, sehen22, machen30, tun10, geben20, nehmen9, legen8, liegen12, setzen7, stehen14, haben37, sein70。4編における動詞使用総数約930回弱のうち、約47%強が、この23種の動詞の用例である。
- 4) この老女をめぐる解釈については、2008年度駿河台大学特別研究助成費の共同研究者である櫻井の論がある。  
櫻井千絵:「いばら姫」糸つむぎの正体は?—絵本における解釈—(2008)  
また、童話における「語り」について、同助成費の2008年度、2009年度共同研究者である太田隆士より有益な助言を得た。
- 5) 明石真和:「グリム童話に見る話法の助動詞」(1997)
- 6) Dのほぼ同じ箇所と同様例がある。

...sah er...die Pferde und ...Jagdhunde liegen und schlafen.

王子は、馬や・・・猟犬が横になって眠りこけているのを見ました。

- 7) sich kaufen など、自由3格が再帰代名詞となっている例も多数見られる。
- 8) リュティ, マックス: ヨーロッパの昔話 (岩崎美術社 1981) P45-46
- 9) 名詞形ではないが、同様がRにもみられる。

Der Wolf ging geradeswegs nach dem Haus der Großmutter.

狼は、まっしぐらにおばあさんの家に向かった。

Rotkäppchen...ging gerade fort seines Wegs...

赤ずきんは、まっすぐ道を急いで・・・

- 10) 外山滋比古: 思考の生理学 (筑摩書房 1984) P135
- 11) このほかwas (9回), weil (7回), damit (4回), bis (3回) など。
- 12) ラム, チャールズ他: シェイクスピア物語 (岩波文庫 2009)  
Griesbach, Rosemarie: Deutsche Märchen und Sagen (Max Hueber 1973)
- 13) 明石真和「21世紀に向けてのドイツ語教育」(1998)
- 14) 駿河台大学でも「ドイツ語暗唱大会」が開催され、2009年度で第18回大会となった。  
グリム童話は、毎年、参加者に人気の高いテキストである。
- 15) 共同執筆 (太田隆士, 櫻井千絵, 明石真和) によるドイツ語教科書「楽しいドイツ語トレーニング (三修社)」では、このような方針のもと、グリム童話の例文を多く取り入れた試みをしている。

## 主要参考文献

Text

Brüder Grimm: Kinder- und Hausmärchen Philipp Reclam Jun. Stuttgart 1976

Brüder Grimm: Kinder- und Hausmärchen Winckler München 1977

## 単語集

ドイツ語基本単語2000 (フーゴー・シュテーター/マリーア・カイル,  
早川東三訳 日本放送出版協会1974)

独検3・4級必須単語集 (森泉 白水社2009)

## 教材

Griesbach, Rosemarie: Deutsche Märchen und Sagen (Max Hueber 7. Aufl. 1973)

楽しいドイツ語トレーニング (太田, 明石, 櫻井 三修社 2006)

## その他

明石真和：「グリム童話に見る話法の助動詞」(駿河台大学論叢第15号1997)

明石真和：「21世紀に向けてのドイツ語教育」(駿河台大学論叢第17号1998)

太田隆士：『グリム童話』にみる個性化 — 「白雪姫」と「ふたりの旅人」 —  
(駿河台大学論叢第37号2008)

櫻井千絵：「いばら姫」糸つむぎの正体は？ — 絵本における解釈 —  
(駿河台大学論叢第37号2008)

外山滋比古：思考の生理学 (筑摩書房 初版第6刷 1984)

ラム, チャールズ他：シェイクスピア物語 (安藤貞雄訳 岩波文庫 2009)

リュティ, マックス：ヨーロッパの昔話(小澤俊夫訳, 岩崎美術社 第11刷 1981)

[本研究は、2008年度、2009年度の駿河台大学特別研究助成費の補助を受けたものです。あらためて謝意を表します。共同研究者：太田隆士，櫻井千絵]